

多様性の意味

出雲市立第三中学校 三年 清水葵

私は、自分が一般的な観点では「オタク」と呼ばれているような人であることを自覚しています。そのことについて「気持ち悪い趣味だから直さなきゃな。」とか「引かれるから人には言わないでおこう。」などと思ったことは一度もありません。そんなふうに思うことは自分の好きな事を否定することになると思うからです。これが私の当たり前で、趣味は私の心の拠り所です。そんなふうに自分が大好きで大切な物や事を人に否定されたり、あまつさえ「気持ち悪い。」などと言われたらみなさんはどう思いますか。

ある日私は、友達に本を借りていました。本の内容は、ラブコメディです。それを受け取って、「前回はココがよかった。」や「あの人意外とおもしろいでしょ。」などとオタク談義に花を咲かせていました。そんな私の楽しい時間を破壊した一言。たまたまその場に居合わせた私の知り合いが、私の持っている本を見て、

「何それ、気持ち悪い。」

と言ったのです。私は苦笑いをするしかできませんでした。ですが心の中では自分と友達の共通の趣味に対してのその発言に不快感でいっぱいでした。しかし、その人は本当にあの本を見て気持ち悪いと思ったのかもしれないので「そんなことない。」とその場で否定することは私にはできませんでした。そんな私を見て、友達は「一定数あぁ言う人はいるから気にせず関わらないほうがいい。」と言いました。私はその発言を聞いて、すごく悩みました。自分とは違う意見に耳を塞いで関係を断つことは楽なのかもしれません。ですが、なんだかすごく切ない考え方のように思いました。そんな私の心に掛かっていた迷いを晴らしたのは、

「相手の意見を否定したりせず、どうしてそう思ったのか聞いてあげてください。」

と言う担任の先生の言葉でした。この言葉はすごく当たり前のように感じますが、実行できている人は少ないと思います。実際に例の気持ち悪い発言をしたあの人も、相手の気持ちを考えずに自分の意見だけぶつけて人を傷付けたし、あの発言に対して関わらないほうがいいと結論付けた私達も先生の言葉とは正反対の行動でした。ですが、あの言葉を聞いた今の私なら関わらないほうが良いなんて思いません。自分とは反対の意見の人と出会っても、まずその人の意見や考えをどうしてそう思ったのか聞いて自分の意見や考えを広げていきます。この考え方は、最近よく聞く「多様性に富んだ社会」の土台となる考え方だと私は思います。なぜなら私の思う多様性に富んだ社会とは自分の考えで相手を否定したり、その意見を無視したりして、同じ考えを持つ人だけが集まって、他の意見や好みを攻撃したりすることではありません。かと言って「みんな同じ物や事を好きになれ。」とは思いません。自分とは違う人の意見を聞いたり、自分から言ったりすることは怖いことかもしれません。ですが、少し勇気を出して「相手の意見を否定したりせず、どうしてそう思ったのか聞く。」このことを実行することが私達にできる多様な社会への一歩であり、私のような体験をして

傷付く人を減らすことになると思います。多様性と聞くとなんだか難しいと考える人もいるかもしれませんが、実現のヒントは日常にあふれています。今回の私の体験がその例です。みなさんも自分なりの多様性の意味を探して考えてみてください。一人一人がそうすることがきっと「多様性に富んだ社会」だと私は思います。